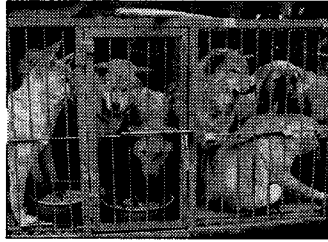


SPAY/USA also promotes work-shops to improve veterinarians techniques in neutering. An unskilled vet can take 40 minutes or more to neuter one animal while a skilled vet can spay in 6 minutes.

There is also a growing movement to neuter earlier and earlier. Veterinarians used to advise people to let allow pets to have one litter before spaying. Now the practice is to neuter at 4 months or as early as 2 months. A German vet practicing in Italy who attended the Budapest Conference said she always neuters at 2-3 months before puppies and kittens get adopted. It is just a case of training vets in the surgery techniques. All too often a puppy or kitten given out for adoption itself soon becomes a mother, just because most people do not believe an animal can get pregnant at 5 months.

In Japan millions of animals are abandoned and destroyed annually by the hokensho because there are too many and not enough homes. If it possible in a country the size of the USA to launch such a successful neutering campaign, why not in Japan? It would surely be in the best interests of veterinarians here to encourage owners to have their pets neutered, because fewer but more well cared for animals are better customers in the long run.

今から5年前、米国のエスター・メクラ氏は、コンパニオン動物たちの数を最少に減らして、彼らの生活をより良いものにするという活動を始めました。犬や猫が少なくなると、人々は動物達をもっと丁寧に扱い大切にするので、動物達にとって良い家庭が見つかりやすくなる、ということなのです。このプログラムは「SPAY/USA」(spayは「不妊手術する」の意)と呼ばれ、米国の収容施設で殺される動物の数を減少させることに著しい成功を収めています。(執筆に際し、昨年10月にブダペストで開催された第1回国際動物福祉会議でのエスター・メクラ氏の講演記録を参照しました。)



第2回

不妊手術

ペット数過剰の悪循環を断つ

アーク代表 エリザベス・オリバー

米国では、毎日1万人の人間が生まれています。そして同じように生まれてくる子犬や子猫の数は毎日7万匹にも上ります。このような出生率が続く限り、生まれてきたすべての犬や猫に十分な家庭が見つかることはありません。その結果、子犬や子猫を含む何百万匹の健康で愛らしい犬や猫が、動物コントロールという形で、早すぎる死に直面させられています。

SPAY(スペイ)/USAは、その活動に協力し、安い費用で動物の去勢と予防接種を行うことに同意してくれた1人の獣医師と共に始められました。そのように料金を安くできたのは、数多くの人がその獣医師を訪ねたからです。1年目に、活動は全国150カ所に広がりました。翌年には300カ所に広がり、3年目には、450カ所、3000人の獣医師がこの考えに協力してくれました。1995年までには、年間で6万匹の動物が全国800都市・5000人の獣医によって去勢されました。その獣医師の数は、米国の小動物を扱う獣医師の10%に当たります。

活動を効率良く経済的に行うために、色々な施設が使用されています。その一つがSPAY-MOBILE(スペイモバイル)です。これは、スクールバスを改造した移動診療所で、座席を取り払い、手術台や照明器具、シンク(流し)、給水設備、殺菌設備、保管スペースを備え付けたものです。SPAYMOBILEは田舎などを訪れて、飼い主の自宅で動物の去勢を行うことができるので、動物や飼い主は遠く離れた都市の病院まで行く必要がなく、移動によるストレスや苦痛から解放されます。

別の施設として、SUPER CLINIC(スーパークリニック)があります。SUPER CLINICでは、一人の獣医師に4~5人の助手が付き、助手達が一切の事務処理や、動物の洗浄・毛剃り、手術準備を行うので、不妊手術を通常の場合よりも迅速かつ経済的に行うことができます。ラスベガスにあるSUPER CLINICでは一日に60~70匹の動物を去勢することができます。その結果、安楽死させられる迷い犬猫の数が3年間で2万2千匹から1万1千匹にまで減少しました。

最近まで、野生化した猫やホームレスの猫は無視され、ただその数が増えて死ぬままにされていました。現在では、SPAY/USAが、他のグループ(Ally Cat Allies)と共にネットワークを作り、ボランティアの世話人たちが猫を捕獲して診療所に運んでいます。診療所に運ばれた猫達は、予防接種を受けて去勢され、世話人に返される前に耳に印(切り込み)が付けられます。世話人は猫の状態が放せる程度に戻るまで猫の世話をします。

また、SPAY/USAは、獣医師の去勢技術を向上させるための研究集会も盛んに行っています。不慣れた獣医師だと1匹の去勢に40分以上掛かりますが、慣れた獣医なら6分で卵巣除去手術を行えます。

去勢時期を早めようとする動きも活発になりつつあります。これまで多くの獣医師は、一般の人達に卵巣除去前にペットに1回は妊娠させることを勧めていました。現在では、生後4カ月、場合によっては生後2カ月という早い時期に去勢が行われます。ブダペスト会議に出席したイタリア在住のドイツ人獣医師の話によると、彼女は常に子犬や子猫が飼い主に引き取られる前の生後2~3カ月の段階で去勢手術を行っているということです。このようなことは、獣医師の手術技術を訓練する場合だけです。引き取られていった子犬や子猫がすぐに母親になってしまふ、ということも珍しいことではありません。なぜなら大部分の人達が、動物が生後5カ月の年齢で妊娠できるとは考えていないからです。

日本では、動物の数があまりにも多く、飼い主となる家庭が不足しているので、毎年何百万匹という動物が捨てられたり、殺されたりしているのです。米国のような広い国でこのような去勢キャンペーンを成功させることができるのなら、日本でできないはずはありません。なにより獣医師にとって、飼い主にペットの去勢を勧めることが最も利益になるということは確実です。なぜなら、数は少なくとも動物を大切に世話する飼い主の方が、長い期間にわたって獣医師のより良いお客さんになるのですから。